

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600424		
法人名	医療法人 山下医院		
事業所名	グループホーム昇山荘(西棟)		
所在地	長崎県五島市吉田町2386		
自己評価作成日	令和5年10月16日	評価結果市町村受理日	令和6年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 5年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者は併設の老健施設の支援を受け、下肢筋力の低下防止と、転倒事故防止を主な目的として、PT指導のもと、週2回のリハビリテーションを受けることができます。また、骨折などによる手術入院後の再入居の際、リハビリが必要な時は、PTにより個人メニューが作成され、集中的なリハビリを受けることができます。術後のリハビリが受けられることから、早期退院が可能になっています。また、STに利用者の「嚥下」状態を、見ていただくことができ、食事の形態などの指導を受けられることから、誤嚥防止につながっています。利用者の栄養状態、制限食などに関しては、栄養士に相談し、指導を受けることができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

初代理事長の思いを、5項目の「運営の指針」として作成し職員間で継承している。母体は医療法人で協力医院や訪問看護師との連携、理学療法士(PT)や言語聴覚士(ST)によるリハビリと嚥下指導は、利用者にとって大きなメリットである。施設長は、行政や外部事業所とも関りが深く、“ノーリフティング宣言への参画”や介護人材確保の為の事業所見学ツアーを実施する等、重要な役割を担っている。事業所は最新の情報を取り入れ福祉器具を導入する等介護の質の向上に努めている。身体拘束委員会では、ケース毎に丁寧に検討していることが、議事録から確認できる。食事は、旬の食材を用いた手作りであり、職員も利用者と共に食卓を囲んでおり和やかな時間となっている。毎週、利用者の好物の刺身を出していることは、島ならではの。利用者が笑顔で生活できるようチームワーク良く、理念の具現化に取り組む事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと			
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない			
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように			
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度			
			3. たまにある				3. たまに			
			4. ほとんどない				4. ほとんどない			
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない			
			4. ほとんどいない				4. 全くいない			
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない			
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が							
			2. 利用者の2/3くらいが							
			3. 利用者の1/3くらいが							
			4. ほとんどいない							

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設長は新任職員などの指導時に創業者の理念を説明している。創業者の介護理念をもとに職員で考えた理念(指針)を事業所内に掲示し、毎朝、唱和して理念の確認を行い日々実践に向けて努力している。	5項目の「運営の指針」は、事務所に掲示し、朝礼時に唱和を行い共有化を図っている。新人職員は法人研修時に、中途採用職員は施設長が説明している。管理者は、自分がされて嫌なことはない、常に職員に伝えている。利用者の尊厳を守り、健康で明るい生活を送ることができるよう、リハビリにも注力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の個人情報保持を第一に考え、気軽に事業所内に立ち入ることを制限している。地域との交流はないが、コロナウイルス発生前は併設の老健との合同の催しがあり、近隣の方に声掛けをしていた。現在は、コロナ予防のため行っていない。	併設法人施設との合同の催しが多く、敬老会や夏祭り等、近隣住民や家族が参加していたが、現在はコロナ感染予防の為、催しを控えている。収束次第、職員は利用者が喜ぶバラモンキングの沿道応援を再開したい意向である。今年は、盆にチャンココ踊りが披露されている。法人全体で、災害時の福祉避難所としての受入体制がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自体の活動は行われていないが、法人の取り組みとして、併設の老健施設において「転倒防止教室」などの講習会を地域で行っている。人材育成への貢献として、看護、PTなどの実習生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回行っている。行政と連絡を取りながらコロナ予防の為、文書を配布していたが、R5、3月より事業所で行えるようになった。頂いた意見は、会議の中で職員へ報告し、サービスに生かせるよう努力している。	会議は、2ヶ月毎の書面会議であったが、今年3月からは、感染状況を見ながら対面会議を開催している。利用者状況や行事報告、身体拘束委員会報告他、議題は多岐にわたり、参加者からは、意見や職員へ労いの言葉等、意見交換の様子が、議事録から確認できる。ただし、議事録は、委員のみの配付で、他の家族へ報告の機会がない。	運営推進会議は、定着した委員のみならず他の家族へも、事業所の取り組みやサービス内容を知って貰う良い機会と捉え、会議の内容を伝える工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、必要に応じて相談や連絡を取り合っている。運営推進会議に参加していただき行政の情報や意見などを頂いている。また、空室状況の報告を毎月行っている。行政主催の研修会(Web)などにも参加している。	行政担当者とは、事業所の近況報告や運営上の不明点を尋ねたり、相談を行っている。行政からは情報を得る等、協力関係を築いている。職員は、行政案内の研修に、主にオンラインで参加している。施設長は、「五島圏域介護人材育成確保対策地域連絡協議会」の副会長を務め、行政と協働で、介護職員確保に尽力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回。身体拘束適正化委員会を行い、事例などを挙げ、対応の仕方を説明し、身体拘束をしないであることを報告している。また、年2回の部内研修(Web)を行い職員が身体拘束について理解を得る機会を作り、身体拘束しない努力をしている。	2ヶ月毎の身体拘束適正化委員会は、帰宅願望が強い利用者の深層心理を探り、支援に取り組む様子が記録から確認できる。夜間は、巡視を頻回に行い、物音で居室に駆け付け等、事故防止に努めている。年2回の部内研修は、技能実習生を含む全職員がオンラインで参加しており、チームで拘束のない支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で、年2回「虐待」について部内研修(Web)を行い理解と意識を高める機会を設けている。月1回の会議では日ごろの対応について意見を出し合い、虐待防止に努めている。また、言葉使いや、対応について気になることがあれば、その都度、声をかけ注意を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」の研修会に参加し伝達講習を行っていたが、現在、コロナ感染予防の為、参加していない。「権利擁護」が必要な利用者は、入居の際には制度を利用している為、入居時に職員へ報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前調査時、契約時に口頭で説明し文書で同意を得ている。また、制度改正などにより利用料の変更がある場合もその都度、文書や口頭で説明し、文書で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者においては日常会話の中で、家族に関しては面会やプラン説明時に意見を伺っている。運営推進会議では家族代表の方の意見を伺い、会議の中で職員へ報告し検討を行っている。「目安箱」を設置しているが、現在まで利用された方はいません。	入居時に管理者が重要事項説明書について話をし、苦情解決のしぐみを家族に説明を行っている。日常的には、家族が日用品を持参した際に話をし、要望を聞き取っている。島外の家族へは、電話でのやりとりが主であるが、今期希望者に対してテレビ電話での会話を始めている。ただし、家族向けの広報誌の発行は、休止している。	家族は、利用者が日頃どのような生活を送っているか、知りたいと常に願っている。令和6年から広報誌の発行を再開する予定とのことである。広報誌をきっかけとして、事業所とのコミュニケーションが活発化することに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は会議や申し送りにできる限り参加し職員の意見や要望を聞くようにしている。参加できなかった場合は主任などが管理者へ報告し、その場や朝の申し送り時に回答を頂いている。職員の意見が反映されることが多い。業務内容変更時には報告し、許可を得て実施している。	日常的には、管理者が職員からの要望を聞き取っている。会議では、業務改善についての検討が多く、職員から役割分担についての要望があがっている。技能実習生は、語学力も高く、日常会話はスムーズである。新人職員から、取得したい資格についての相談もあっている。有給休暇の取得率も高く、働きやすい職場環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は頻回に現場へ来ており、勤務状況などを把握している。また、職員の意見要望に対して早めに回答、対応するなど向上心を持って働ける環境作りに努めている。資格取得への支援も行っている。最近では「認知症介護基礎研修」に5名の職員が参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される(Web)研修会、法人職員が6班に分かれ、それぞれが学習し発表する(Web)部内研修会を行うなど職員の資質向上に努めている。また、外国人技能実習者に対しても日本語の講習などの参加を勧め、予定に応じての勤務ができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為、五島市連絡協議会の研修会など行われていなかったが、本年度より徐々に参加できるようになった。(コロナ予防対策は継続中です。)各事業所のケアマネが集まる「ケアプラン検討会」はまだ、再開されていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に本人の生活や心身の状態、要望、不安、家族関係などを聞きとり情報の把握に努めている。情報を文書と口頭で職員へ説明し共有をはかり本人が安心してサービスが受けれるよう努力している。入所時は、本人の発する言葉に注目し思いなどを把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査、見学の際に家族からの話を聞き、気持ちを汲み取りながら、その中で事業所のできること、できないことをきちんと説明している。お互いが理解し納得した上でサービスを展開し、信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、事前調査時に本人や家族の思いを受け止め、併設の居宅介護支援事業所の協力を得ながらサービス内容を検討している。また、食事や栄養面については栄養士の、リハビリに関してはPT、STなどの協力を得ながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と協力して生活することを理解している。本人の意欲や、できることを把握し、確認してから手伝っていただくなど、お互いが協力のしあいながら良い関係作りに努めている。助言や手伝いをさせていただいた後は、お礼と感謝の言葉を忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員には定年退職後も勤務している方、勤続年数が5、6年と長い方が数名いることから家族とも気軽に話ができる友好関係が保たれている。面会や電話、来訪時に情報交換を行い、家族の協力を得ながら良いサービス提供ができるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人(老人会、自宅近所の方など)や、友人との交流が継続できるよう手紙や電話のやりとり、コロナ感染予防の為、制限はあるものの面会など歓迎している。また、なじみの理美容院への利用や場所に行くのは、コロナ感染予防の為、遠慮していただいている。	新型コロナ感染防止のため、家族との面会は玄関で行っている。家族や知人からの電話の取次をしたり、携帯電話を使う利用者もいる。家族から年賀状が届いた場合は、「来ましたよ」と声を掛けて渡し、馴染みの関係継続の支援を行っている。コロナが第5類に移行したため、最近では、美容室に出掛けた事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握している。共同作業や手伝いなどを通してコミュニケーションをはかり、お互いが関われる環境作りに努めている。また、食堂、リビングなどの公共の場では、利用者同士が声を掛けたり、手助けをしたりする姿が見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去して入所された併設の老健施設や、入院時の面会、葬儀へ参列など退去後も関係を大事にしている。(コロナ感染予防の為、現在は難しくなっている。)家族との関係は友好的だったため、出あったときは挨拶したり話をしたりして情報交換や相談事に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士の会話に耳を傾け、またはコミュニケーションを取り、仕草、表情を観察しながら本人の思いを汲み取るよう努力している。家族からの情報を得ながら、カンファレンスなどで思いを共有しながら、本人の気持ちを尊重し、状況に沿ったケアができるよう心掛けている。	職員は、難聴の利用者に対して耳元で話しかけたり、ホワイトボードを使用している。発語困難な人には、相手のペースに合わせゆっくりと会話を行っている。起床の時間や、テレビの視聴時間は、自由でありお気に入りの番組を楽しむ利用者もいる。食事の時間をずらすことも可能であり、利用者のペースに合わせた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や契約時、入居の際や必要に応じてなど、本人や家族から情報を得るようにしている。知りえた情報は文書や申し送りなどで職員に報告し情報を共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、利用者の生活リズムを把握している。毎日バイタル測定をし、申し送り時に個々の身体状態の報告を行っている。全職員が利用者の状態を把握できるよう、業務日誌、介護記録に記入し出勤時に目を通すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、3ヵ月に1回、又は状況に合わせてカンファレンスを行っている。本人、家族の意見要望、職員の意見を取り入れながら、同意を得て状態にあったケアプランを作成している。	入居時に暫定プランを立て、1ヶ月を目途に見直し、長期1年、短期3ヶ月の介護計画を作成している。3ヶ月毎に計画作成担当者2人でモニタリングを行い、理学療法士や言語聴覚士を交え、カンファレンスを行っている。フェイスシートは、3ヶ月毎に更新している。本人・家族の意向を反映した介護計画は、同意を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、排泄、食事、水分の摂取量、バイタルなどチェック表に記入している。特記事項に関しては業務日誌に記録し職員は出勤時に確認するなど情報の共有をはかっている。カンファレンスでは、各々が情報を出し合い、実践状態を共有しプランの見直しを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週1回の訪問看護師の訪問、医療機関への受診困難な利用者の訪問医療、併設老健のPTによる無料のリハビリ、STによる嚥下評価と指導、栄養士による制限食などの相談、指導などが行われている。また、医療機関への受診対応、入退院時の対応など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業運営推進会議に地域、家族、市の担当者が参加され、話し合いや情報交換を行っている。本人や家族の希望によっては併設の老健と提携して訪問理美容の利用ができるようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に、かかりつけ医の確認を行い継続して通院ができるようにしている。医療機関への受診対応は基本、家族対応としているが、困難な方に対しては職員が行うなど臨機応変に対応している。しかし、現状はほとんど、事業所対応となっている。	利用者・家族が希望するかかりつけ医を継続して受診している。家族が支援できない時は、他科受診も含め、職員が支援しており、受診結果は電話で家族へ伝えている。月1回の訪問診療を契約している利用者もあり、急変時の往診が可能である。夜間緊急時は、主治医の判断のもと、訪問看護師や協力医院へ連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健の医師、看護師、訪問看護師などの協力体制ができており、24時間いつでも対応ができるようになっている。訪問看護は契約に基づき週1回の訪問が行われており、健康管理、医療面での相談、助言、緊急時、看取りの対応など協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して入院治療ができるように契約時や入院時に一定期間、居室の確保ができることを説明している。「入退院の支援の取り組み」も行っている。入院中は、医療連携室などと連絡を取り、入院中の情報交換を行い一日でも早く退院できるよう相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、看取りについて説明し書面にて同意を得ている。利用者の状況に合わせ、その都度、本人や家族の意思を確認し当事業所でできること、できないことを説明し方針を決定している。看取りは、Drや訪問看護師の協力を得て職員間の情報共有を図り、取り組んでいる。	入居時に、重度化指針への同意書を得ている。終末期は事業所にて、主治医を交え訪問看護師、利用者・家族が話し合いを行っている。今年度1例があり、コロナ禍であっても家族が居室で最期のお別れができるよう配慮している。併設施設の医師とも24時間の連絡体制があり安心である。職員は、看取り後の勉強会で振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の知識はあるが応急手当の訓練は行っていない。併設の老健看護師や医師、訪問看護師との連携がとれており、適切な対応ができるようになっている。総合病院が近いため、すぐに搬送し医療処置を受けることができる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防避難訓練の研修、講習に参加している。年2回の消防避難訓練を行い、消火器の使用方法などの指導も受けている。訓練計画は地域の消防本部と協議して作成。火災を未然に防ぐため、毎日の自主検査点検と月1回のコンセンソの状況確認を行っている。	BCPの災害関係は、消防本部と協議の上作成している。緊急時の職員連絡網を職員に周知している。災害時の個人情報持出ファイルを更新中である。消防署立会い、夜間想定総合火災訓練を1回実施しており、今年度、併設施設と合同の火災訓練を予定している。訓練後、消防署から併設施設と夜間協力体制を取るようアドバイスを受けている。	夜間災害時、職員は少人数での対応となる為、利用者と自身の身を守る為にも、併設施設との協力体制を築くことが待たれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員採用時に「個人情報保護」について誓約書を取り守秘義務を徹底している。入居時に個人情報の取り扱い、写真の利用の説明を行い文書にて同意を得ている。居室訪問、トイレ使用時はノックと声掛けを行っている。難聴の方が多いため、声掛けの声が大きくなってしまふ。	職員の利用者への声かけで、不適切と思われる場合は、管理者が注意を行っている。トイレには、パッド類は置かず、居室のポータブルトイレにも、昼間は布をかけ羞恥心への配慮が窺える。利用者の記録類は、外から見えない棚に保管し、写真の掲載には、家族から書面で同意を取り寄せており、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	筆談、ジェスチャー、選択するなどを交えながら自己決定を促している。個々の利用者に合わせた声掛けや、動作や表情で思いや意思を汲み取るなどの努力をしている。着る衣類の選択や、「する」「しない」などの意思を尊重して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムはあるが、本人のペースで生活できるよう柔軟に対応している。利用者の希望を聞いたり、手伝いなどの声掛けをしている。コロナ感染予防の為、現在、外出や買い物などは控えていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何を着るかは本人の意思を尊重している。外出や催しがある時は、身だしなみを整えるように配慮している。散髪は、状態を見ながら職員で行い、希望があれば併設の老健にて訪問理美容が利用できる。行きつけの理美容室の利用はコロナ感染予防の為、控えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好みやアレルギー、咀嚼力、嚥下力など把握し個々の状態に沿った食事を提供している。季節の果物や野菜を食卓に出し、季節を感じることもできるよう配慮している。誕生日は、好物や本人の希望を聞いて提供している。	食事は、利用者の好みを聞き、職員が作っている。系列の施設の栄養士が献立の指導を行い、言語聴覚士が嚥下の状態を観察していることは、事業所の特長といえる。また、毎週の刺身の日、利用者の楽しみとなっている。誕生日には、本人の希望に応じている。ふかし芋やちらし寿司等、家庭の温かみを大切に支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の咀嚼力、嚥下力、摂取量を把握して食事を提供している。栄養のバランス、制限食については老健の栄養士に相談、指導を受けながら提供している。水分摂取については気にかけたり摂取量のチェック、声かけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせ口腔ケアを行っている。磨きの残しや舌の汚れなどにも気を付けている。夕食後は義歯を預かり洗浄剤につけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方のみ排泄チェックや声掛けを行っている。状態に応じて、日中はトイレ使用、夜間はPWC使用など排泄の自立を促している。身体の状態から夜間のみ紙おむつを使用するなど個々の状態に合わせて対応している。下肢筋力防止などのためPT指導のもとリハビリを行っている。	日中は、トイレでの排泄を基本としている。利用者によっては、夜間のみポータブルトイレを使用するケースや、おむつを使用する利用者もいる。下肢の筋力強化のため、定期的にPTの指導のもと、リハビリを実施している。トイレ使用中や、職員がおむつ交換をする場合は、ドアを必ず閉めるようプライバシーへの配慮を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の年齢や身体状態などを考えると運動が困難な方が多い。食事は野菜を多く摂れるよう工夫し水分摂取の声掛けもしている。しかし、便秘気味の方は薬に頼っているのが現状である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	水、土曜日はリハビリがあるため入浴は休みにしているが、他の日は希望があれば、毎日でも午後から入浴ができるようになっている。また利用者の生活リズムを考慮して、午前中に入浴される方もおられる。入浴の有無を確認し、職員と1:1で対応している。	水曜日と土曜日以外は、いつでも入浴は可能である。平均して週に2回から3回の頻度であるが、毎日入浴の利用者もいる。時間帯も午前、午後とも可能である。冬至には、ゆず湯でリラックスできるよう支援を行っている。同性介助の希望は、利用者毎に確認を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は余暇の時間を自由に過ごされているので休みたいときに休まれている。意思表示のできない方には、状態を見て声掛けをし休めるようにしている。夜間、眠れないときは、話をしたり暖かい飲み物を提供したりして入眠しやすいように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬している薬に関して十分理解しているとは言えない。しかし、注意すべき薬や変更があった際はその都度、職員へ説明している。処方箋やお薬手帳を受診用ファイルに保管しいつでも閲覧できるようにしている。薬は職員が管理し、服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「出来ること。」を大切にしてケアを行っている。役割(手伝い)、趣味活動は個々の状態に合わせて支援している。飲酒、喫煙(喫煙所利用)もできる。個人的な買い物の対応、ドライブなどを行っている。現在はコロナ感染予防のため、人込みへの外出は控えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば買い物や家族との外出はできるが、コロナ感染予防のため、現在は控えていただいている。気分転換にドライブに出かけたりしている。	新型コロナ禍のため、以前のような外出支援はできないが、日常では、隣接するリハビリ施設へ職員が付き添い通っている。近隣の大型店に買い物に行くこともある。病院受診の際は、車窓から花や景色を眺め、季節の移ろいを感じている。今年は、春の桜、秋のコスモス見物にドライブを実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、本人や家族と話し合っ決めて決めている。管理できる方は本人が所持し、できない方は家族管理としている。希望があれば、事務所預かりで必要な時にいつでも使用することができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所前に公衆電話を設置し自由に利用できるようになっている。電話がかけられない方には介助を行っている。現在、数人の方が携帯電話を使用されているので、充電などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や貼り絵などを飾って季節を感じられるように工夫している。利用者の状態に合わせて模様替えをしたり、食堂の席替えをしている。室温の調節、換気、カーテンなどを利用しての光の調整を行い過ごしやすい空間作りを心掛けている。	東西のユニットを繋ぐ長い廊下は、利用者の歩行訓練に使用している。リビングは、季節の花や作品を飾り、キッチンでの職員の調理風景は、家庭的である。利用者は、好きな場所でテレビを見たり、仲のいい者同士おしゃべりしたり、のんびりと過ごしている。職員による掃除と換気、温度調節で、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが、居たい場所で好きなように過ごされている。食堂やリビングで話をしたり、作業などを行っており、出来ること、したいことをして過ごされている。最近は利用者同士のおしゃべりが多くなったと感じられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使用されていた家具や馴染みの品物を持ち込んでいいようになっている。家具などの配置については、身体状態を配慮しながら本人や家族と相談して決めている。また、本人が作成した作品なども飾っている。	居室入口の表札は、災害時の避難後確認を兼ねている。畳とフローリングの居室があり、利用者が使い慣れたソファやテーブル等馴染みの物を、配置している。カトリックの信者である利用者の居室には、神父も時々訪問することがある。定期的なリネン交換と、職員による清掃や温度管理で快適に保ち、寛げる居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて自室やトイレなどに目印をつけている。車椅子でも自立した排泄ができるように4か所のトイレの改修を行った。東西棟をつなぐ長い廊下は歩行訓練や散歩などに利用され下肢筋力の低下防止に一役かっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600424		
法人名	医療法人 山下医院		
事業所名	グループホーム昇山荘(東棟)		
所在地	長崎県五島市吉田町2386		
自己評価作成日	令和5年10月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者は併設の老健施設の支援を受け、下肢筋力の低下防止と、転倒事故防止を主な目的として、PT指導のもと、週2回のリハビリテーションを受けることができます。また、骨折などによる手術入院後の再入居の際、リハビリが必要な時は、PTにより個人メニューが作成され、集中的なリハビリを受けることができます。術後のリハビリが受けられることから、早期退院が可能になっています。また、STに利用者の「嚥下」状態を、見ていただくことができ、食事の形態などの指導を受けられることから、誤嚥防止につながっています。利用者の栄養状態、制限食などに関しては、栄養士に相談し、指導を受けることができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設長は新任職員などの指導時に創業者の理念を説明している。創業者の介護理念をもとに職員で考えた理念(指針)を事業所内に掲示し、毎朝、唱和して理念の確認を行い日々実践に向けて努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の個人情報保持を第一に考え、気軽に事業所内に立ち入ることを制限している。地域との交流はないが、コロナウイルス発生前は併設の老健との合同の催しがあり、近隣の方に声掛けをしていた。現在は、コロナ予防のため行っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自体の活動は行われていないが、法人の取り組みとして、併設の老健施設において「転倒防止教室」などの講習会を地域で行っている。人材育成への貢献として、看護、PTなどの実習生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回行っている。行政と連絡を取りながらコロナ予防の為、文書を配布していたが、R5、3月より事業所で行えるようになり、直接、ご意見やご指導をいただけるようになった。頂いた意見は、会議の中で職員へ報告し、サービスに生かせるよう努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、必要に応じて相談や連絡を取り合っている。運営推進会議に参加していただき行政の情報や意見などを頂いている。また、空室状況の報告を毎月行っている。行政主催の研修会(Web)などにも参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヵ月に1回。身体拘束適正化委員会を行い、事例などを挙げ、対応の仕方を説明し、身体拘束をしないであることを報告している。また、年2回の部内研修(Web)を行い職員が身体拘束について理解を得る機会を作り、身体拘束しない努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で、年2回「虐待」について部内研修(Web)を行い理解と意識を高める機会を設けている。月1回の会議では日ごろの対応について意見を出し合い、虐待防止に努めている。また、言葉使いや、対応について気になることがあれば、その都度、声をかけ注意を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」の研修会に参加し伝達講習を行っていたが、現在、コロナ感染予防の為、参加していない。「権利擁護」が必要な利用者は、入居の際には制度を利用している為、入居時に職員へ報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前調査時、契約時に口頭で説明し文書で同意を得ている。また、制度改正などにより利用料の変更がある場合もその都度、文書や口頭で説明し、文書で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者においては日常会話の中で、家族に関しては面会やプラン説明時に意見を伺っている。運営推進会議では家族代表の方の意見を伺い、会議の中で職員へ報告し検討を行っている。「目安箱」を設置しているが、現在まで利用された方はいません。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は会議や申し送りにできる限り参加し職員の意見や要望を聞くようにしている。参加できなかった場合は主任などが管理者へ報告し、その場や朝の申し送り時に回答を頂いている。職員の意見が反映されることが多い。業務内容変更時には報告し、許可を得て実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は頻回に現場へ来ており、勤務状況などを把握している。また、職員の意見要望に対して早めに回答、対応するなど向上心を持って働ける環境作りに努めている。資格取得への支援も行っている。最近では「認知症介護基礎研修」に5名の職員が参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される(Web)研修会、法人職員が6班に分かれ、それぞれが学習し発表する(Web)部内研修会を行うなど職員の資質向上に努めている。また、外国人技能実習者に対しても日本語の講習などの参加を勧め、予定に応じての勤務ができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為、五島市連絡協議会の研修会など行われていなかったが、本年度より徐々に参加できるようになった。(コロナ予防対策は継続中です。)各事業所のケアマネが集まる「ケアプラン検討会」はまだ、再開されていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に本人の生活や心身の状態、要望、不安、家族関係などを聞きとり情報の把握に努めている。情報を文書と口頭で職員へ説明し共有をはかり本人が安心してサービスが受けれるよう努力している。入所時は、本人の発する言葉に注目し思いなどを把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査、見学の際に家族からの話を聞き、気持ちを汲み取りながら、その中で事業所のできること、できないことをきちんと説明している。お互いが理解し納得した上でサービスを展開し、信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、事前調査時に本人や家族の思いを受け止め、併設の居宅介護支援事業所の協力を得ながらサービス内容を検討している。また、食事や栄養面については栄養士の、リハビリに関してはPT、STなどの協力を得ながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と協力して生活することを理解している。本人の意欲や、できることを把握し、確認してから手伝っていただくなど、お互いが協力のしあいながら良い関係作りに努めている。助言や手伝いをさせていただいた後は、お礼と感謝の言葉を忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員には定年退職後も勤務している方、勤続年数が5、6年と長い方が数名いることから家族とも気軽に話ができる友好関係が保たれている。面会や電話、来訪時に情報交換を行い、家族の協力を得ながら良いサービス提供ができるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人(老人会、自宅近所の方など)や、友人との交流が継続できるよう手紙や電話のやりとり、コロナ感染予防の為、制限はあるものの面会など歓迎している。また、なじみの理美容院への利用や場所に行くのは、コロナ感染予防の為、遠慮していただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握している。共同作業や手伝いなどを通してコミュニケーションをはかり、お互いが関われる環境作りに努めている。また、食堂、リビングなどの公共の場では、利用者同士が声を掛けたり、手助けをしたりする姿が見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去して入所された併設の老健施設や、入院時の面会、葬儀へ参列など退去後も関係を大事にしている。(コロナ感染予防の為、現在は難しくなっている。)家族との関係は友好的だったため、出あったときは挨拶したり話をしたりして情報交換や相談事に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士の会話に耳を傾け、またはコミュニケーションを取り、仕草、表情を観察しながら本人の思いを汲み取るよう努力している。家族からの情報を得ながら、カンファレンスなどで思いを共有しながら、本人の気持ちを尊重し、状況に沿ったケアができるよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や契約時、入居の際や必要に応じてなど、本人や家族から情報を得るようにしている。知りえた情報は文書や申し送りなどで職員に報告し情報を共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、利用者の生活リズムを把握している。毎日バイタル測定をし、申し送り時に個々の身体状態の報告を行っている。全職員が利用者の状態を把握できるよう、業務日誌、介護記録に記入し出勤時に目を通すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、3ヵ月に1回、又は状況に合わせてカンファレンスを行っている。本人、家族の意見要望、職員の意見を取り入れながら、同意を得て状態にあったケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、排泄、食事、水分の摂取量、バイタルなどチェック表に記入している。特記事項に関しては業務日誌に記録し職員は出勤時に確認するなど情報の共有をはかっている。カンファレンスでは、各々が情報を出し合い、実践状態を共有しプランの見直しを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週1回の訪問看護師の訪問、医療機関への受診困難な利用者の訪問医療、併設老健のPTによる無料のリハビリ、STによる嚥下評価と指導、栄養士による制限食などの相談、指導などが行われている。また、医療機関への受診対応、入退院時の対応など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業運営推進会議に地域、家族、市の担当者が参加され、話し合いや情報交換を行っている。本人や家族の希望によっては併設の老健と提携して訪問理美容の利用ができるようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に、かかりつけ医の確認を行い継続して通院ができるようにしている。医療機関への受診対応は基本、家族対応としているが、困難な方に対しては職員が行うなど臨機応変に対応している。しかし、現状はほとんど、事業所対応となっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健の医師、看護師、訪問看護師などの協力体制ができており、24時間いつでも対応ができるようになっている。訪問看護は契約に基づき週1回の訪問が行われており、健康管理、医療面での相談、助言、緊急時、看取りの対応など協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して入院治療ができるように契約時や入院時に一定期間、居室の確保ができることを説明している。「入退院の支援の取り組み」も行っている。入院中は、医療連携室などと連絡を取り、入院中の情報交換を行い一日でも早く退院できるよう相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、看取りについて説明し書面にて同意を得ている。利用者の状況に合わせ、その都度、本人や家族の意思を確認し当事業所でできること、できないことを説明し方針を決定している。看取りは、Drや訪問看護師の協力を得て職員間の情報共有を図り、取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の知識はあるが応急手当の訓練は行っていない。併設の老健看護師や医師、訪問看護師との連携がとれており、適切な対応ができるようになっている。総合病院が近いため、すぐに搬送し医療処置を受けることができる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防避難訓練の研修、講習に参加している。年2回の消防避難訓練を行い、消火器の使用方法などの指導も受けている。訓練計画は地域の消防本部と協議して作成。火災を未然に防ぐため、毎日の自主検査点検と月1回のコンセントの状態確認を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員採用時に「個人情報保護」について誓約書を取り守秘義務を徹底している。入居時に個人情報の取り扱い、写真の利用の説明を行い文書にて同意を得ている。居室訪問、トイレ使用時はノックと声掛けを行っている。難聴の方が多いため、声掛けの音が大きくなってしまう。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	筆談、ジェスチャー、選択するなどを交えながら自己決定を促している。個々の利用者に合わせた声掛けや、動作や表情で思いや意思を汲み取るなどの努力をしている。着る衣類の選択や、「する」「しない」などの意思を尊重して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムはあるが、本人のペースで生活できるよう柔軟に対応している。利用者の希望を聞いたり、手伝いなどの声掛けをしている。コロナ感染予防の為、現在、外出や買い物などは控えていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何を着るかは本人の意思を尊重している。外出や催しがある時は、身だしなみを整えるように配慮している。散髪は、状態を見ながら職員で行い、希望があれば併設の老健にて訪問理美容が利用できる。行きつけの理美容室の利用はコロナ感染予防の為、控えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好みやアレルギー、咀嚼力、嚥下力など把握し個々の状態に沿った食事を提供している。季節の果物や野菜を食卓に出し、季節を感じることもできるよう配慮している。誕生日は、好物や本人の希望を聞いて提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の咀嚼力、嚥下力、摂取量を把握して食事を提供している。栄養のバランス、制限食については老健の栄養士に相談、指導を受けながら提供している。水分摂取については気にかけおり摂取量のチェック、声かけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせ口腔ケアを行っている。磨きの残しや舌の汚れなどにも気を付けている。夕食後は義歯を預かり洗浄剤につけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方のみ排泄チェックや声掛けを行っている。状態に応じて、日中はトイレ使用、夜間はPWC使用など排泄の自立を促している。身体の状態から夜間のみ紙おむつを使用するなど個々の状態に合わせて対応している。下肢筋力防止などのためPT指導のもとリハビリを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の年齢や身体状態などを考えると運動が困難な方が多い。食事は野菜を多く摂れるよう工夫し水分摂取の声掛けもしている。しかし、便秘気味の方は薬に頼っているのが現状である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	水、土曜日はリハビリがあるため入浴は休みにしているが、他の日は希望があれば、毎日でも午後から入浴ができるようになっている。また利用者の生活リズムを考慮して、午前中に入浴される方もおられる。入浴の有無を確認し、職員と1:1で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は余暇の時間を自由に過ごされているので休みたいときに休まれている。意思表示のできない方には、状態を見て声掛けをし休めるようにしている。夜間、眠れないときは、話をしたり暖かい飲み物を提供したりして入眠しやすいように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬している薬に関して十分理解しているとは言えない。しかし、注意すべき薬や変更があった際はその都度、職員へ説明している。処方箋やお薬手帳を受診用ファイルに保管しいつでも閲覧できるようにしている。薬は職員が管理し、服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「出来ること。」を大切にケアを行っている。役割(手伝い)、趣味活動は個々の状態に合わせて支援している。飲酒、喫煙(喫煙所利用)もできる。個人的な買い物の対応、ドライブなどを行っている。現在はコロナ感染予防のため、人込みへの外出は控えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば買い物や家族との外出はできるが、コロナ感染予防のため、現在は控えていただいている。気分転換に「ドライブ」に出かけたりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、本人や家族と話し合っ決めて決めている。管理できる方は本人が所持し、できない方は家族管理としている。希望があれば、事務所預かりで必要な時にいつでも使用することができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所前に公衆電話を設置し自由に利用できるようになっている。電話がかけられない方には介助を行っている。現在、数人の方が携帯電話を使用されているので、充電などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や貼り絵などを飾って季節を感じられるように工夫している。利用者の状態に合わせて模様替えをしたり、食堂の席替えをしている。室温の調節、換気、カーテンなどを利用しての光の調整を行い過ごしやすい空間作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが、居たい場所で好きなように過ごされている。食堂やリビングで話をしたり、作業などを行っており、出来ること、したいことをして過ごされている。最近は利用者同士のおしゃべりが多くなったと感じられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使用されていた家具や馴染みの品物を持ち込んでいいようになっている。家具などの配置については、身体状態を配慮しながら本人や家族と相談して決めている。また、本人が作成した作品なども飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて自室やトイレなどに目印をつけている。車椅子でも自立した排泄ができるように4か所のトイレの改修を行った。東西棟をつなぐ長い廊下は歩行訓練や散歩などに利用され下肢筋力の低下防止に役かっている。		